メンバー紹介！

NPO法人　芥川倶楽部 山本 忠雄さん
(㈱エイト日本技術開発　河川技術者)

土木工学科卒業で、会社に入ってから一貫して河川の計画に携わってきました。京都の川では全国的に珍しい二層式河川や多自然川づくりの計画に関わることができ、寝屋川では市民サイドに立った市民参加による川づくりなどを経験することができました。
もっと川の生物のことを知りたいと思うようになった頃、地元の高槻に、たかつき環境市民会議水グループがあることを知って仲間に入れてもらい、あれよあれよと思ううちに芥川倶楽部に参加していました。趣味の山登りが、いつしか川歩きになり、定年になったら、いい川をいっぱい見に行きたいと思っていましたが、再雇用でしばらくお預けです。後１～２年すれば念願がかなえられると楽しみにしています。
芥川は都市河川でありながら生物豊かな素晴らしい川です。今は多くの落差によって魚類等の移動が妨げられていますが、これも徐々に解消され、さらに豊かな川になると思っています。これからは、
《市民参画が川を変える！》を目標に、芥川に係わっていきたいと思っています。

芥川倶楽部行事予定

●こいのぼりフェスタ１０００

毎年恒例！今年も桜堤公園で出展します
平成２２年４月２９日（木）

●芥川・淀川連続講座

「歴史と生活から見た芥川」をテーマに･･･
平成２２年４月２４日（土）　14:00～
生涯学習センター　３F研修室

●ネットワーク総会

川の日にみんなで集いましょう
平成２２年７月７日（川の日）

サポーター募集中!

芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに一緒に参加してくださる「サポーター」を募集しています。ご登録いただいた方にはイベント等のご案内を差し上げます。連絡は下記まで。

★連絡先★
e-mail：ayu@akutagawa-club.net
TEL＆FAX：072（685）3503

3/２７(土)
開催

今年もやります！

第５回 クリーンアップ大作戦

～芥川をみんなの川に～

今年もアユの棲めるきれいな川をめざし一斉清掃活動を行います。

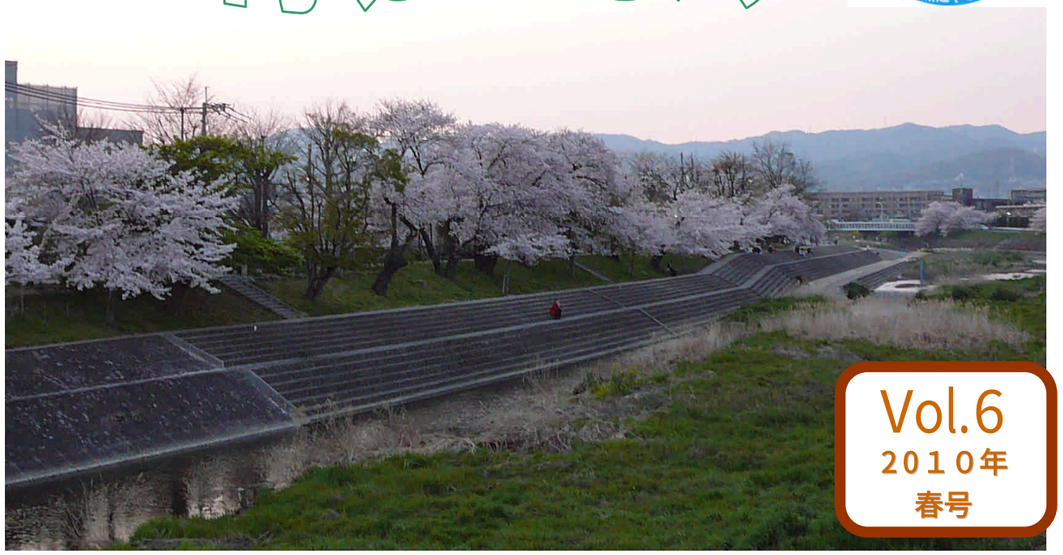
【日時】平成２２年３月２７日（土）　１０：００～正午（小雨決行）
【集合】右の地図の５箇所のうち都合のいい場所で結構です
※長靴は各自でご用意下さい
※作業用手袋・ゴミ袋は集合場所で配布します

今年はネットワークの参加団体のみなさんと親水交流会で打合せを行い、各集合場所の担当割りをしました。団体のみなさんとの交流を深め、今後ますます芥川を軸に活動の輪が広がっていけばと思います。

たくさんのみなさんのご参加・ご協力お待ちしています！

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより



Vol.6
２０１０年
春号

ＪＲ橋梁上流のようす

ミズヒマワリの駆除大作戦!!

最近、あれだけ芥川に繁茂していたミズヒマワリが減ったように感じませんか？塚脇橋からあくあぴあ芥川前までは、2005年から芥川倶楽部を中心とした市民ボランティアが根気よく駆除作業を続けた結果、ほぼ撲滅することができました。
また、その下流は、今年度、大阪府茨木土木事務所が国の緊急雇用創出基金事業を活用し、ミズヒマワリ駆除に取り掛かりました。そのため、城西橋から上流ではミズヒマワリを見かけることはありません。
しかし、油断はできません。まだ、土の中に根が残っているかもしれないのです。植物を根絶することは非常に難しく、特にミズヒマワリは繁殖力が強いため小さな芽を見逃し放置してしまうと、すぐに元に戻ってしまいます。現在のようなミズヒマワリがない状態を守るには、小さな芽を見逃さず、見つけたら広がらないうちに摘み取る。これを根気良く続けていくしかありません。

今後も芥川倶楽部ではミズヒマワリの駆除作業を継続していきます。5月頃、塚脇橋からあくあぴあ間のミズヒマワリの駆除イベントを検討しており、一緒に活動していただける方を大募集しています！また、ミズヒマワリに関する啓発イベントも検討していますのでご期待下さい。

●ミズヒマワリとは・・・？

中南米原産。日本では６～１０月頃に白く丸い花が咲き、繁殖力が極めて強い。2005年、外来生物法における特定外来生物に指定。

ミズヒマワリの駆除作業

芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク　～ 愛 称 ： 芥 川 倶 楽 部 ～
事務局：ＮＰＯ法人　芥川倶楽部　ホームページ　http://www.akutagawa-club.net/
芥川水辺だより　VOL.６　2010年春号　平成22年(2010年)3月 発行

～～～ 「芥川」は大阪ミュージアムの登録物に認定されています ～～～

～～～～ 活動記録 ～～～～

歩いて知ろうよ　芥川２
～みんなが芥川を安全に楽しめるよう遊歩道を整備しよう～

自然豊かな芥川。その現状を知り、みんなが楽しく安全に川に親しめるようになるために、まずは、芥川の下流から連続した遊歩道の整備を目指そう！ということで、昨年度より遊歩道イベントが始まりました。

今年はその第2弾ということで、平成21年11月28日（土）に開催しました。約50人の参加者があり、朝10時に市役所に集合し、田口代表のあいさつのあと、4つの班に分かれて出発。あくあぴあ芥川まで約5キロの道のりを、それぞれガイドの解説をきき、ときに質問をしながら芥川沿いをゆっくり歩きました。

途中、阿久刀神社の土井宮司さん、高槻の郷土史研究をされている古藤さんに、ミニ講座を開いていただきました。私たちの身近にある芥川について、詳しく知ることができ、さらに親しみを持ってもらえたのではないでしょうか 。

当日は、うす曇で、風もあり少し寒かったのですが、ゴールのあくあぴあ芥川では、熱々の豚汁と災害非常食のアルファー米のご飯をみなさんに振舞い、体を温めました。

当日行ったアンケートをみると、
芥川の良いところは、豊かな自然や生き物、そしてきれいな水。
一方、残念なところは、ゴミが多かったこと。
芥川遊歩道に必要と思われるものはトイレといったような結果でした。

芥川倶楽部では、今後も芥川の遊歩道整備に向け、皆さんと一緒に考えながら、イベントの開催や関係部局へ働きかけなど、活動を続けていきます。

平成２２年度の活動は･･･

芥川倶楽部も活動を始めてはや5年。毎年いろいろな活動を行ってきました。平成22年度についても、アユがのぼれる美しい芥川に、そしてみんなが楽しんで集える芥川にするためどんな活動をしていったらいいのか、「こんなことをしたい。」「もっとこうしたらどうだろう。」と現在検討中です。 そんな中から活動内容案をいくつか紹介してみると･･･

･魚みちの見学会や遡上実験をしてみたらどうか。
･津之江公園付近でミズヒマワリ駆除のようなイベントはできないか。
･芥川をテーマにした写真展をしたらどうだろう。
･お父さんを対象とした魚捕り講座をしたらおもしろいんじゃない。
などなどです。

また、前回も報告しました親水交流会。回を重ねるごとに芥川への取組の輪が広がっているようで、平成22年度の活動予定についてもみなさんと話し合いました。

今後の親水交流会については、総会前に活動予定の内容検討をするのに1回、秋ごろにイベントやクリーンアップの話し合いをするのに1回、年末頃に次年度の活動内容や予定を話し合うのに1回、と3回程度行っていきたいと考えています。

親水交流会を通じて広く芥川に関わるみなさんと意見交換、連携し、ネットワークの活動に反映していきたいと考えています。ぜひみなさん親水交流会にご参加下さい。

あくあぴあからのお知らせ

いよいよ春。草木や虫たちも眠りからさめ活動を始めています。

芥川緑地資料館「あくあぴあ芥川」でも、そんな春満載のイベントを企画しています。

ぜひこの機会におでかけください。

●企画展「安田守昆虫展　不思議なムシ　オトシブミ」
　3月6日（土）～5月9日（日）

●春の野草観察会
　4月18日（日）　10:00～12:00

●講演会「オトシブミのひみつ！」
　4月24日（土）　13:30～15:30

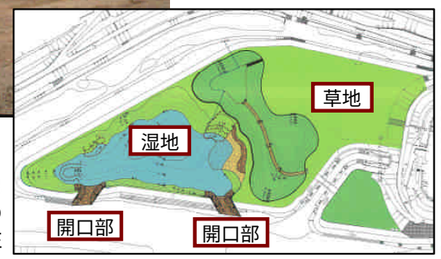
●春の昆虫観察会
　4月25日（日）　10:00～12:00

イベントについて詳しくは下記ＨＰ
　http://www.omnh.net/aquapia/
もしくはあくあぴあ芥川（072-692-5041）まで

現況報告　津之江公園自然再生エリア開口部工事すすむ！

津之江公園工事中のようす

夏には子供達がバッタ捕りをしました



津之江公園将来イメージ図

津之江公園において、芥川と自然再生エリアを結ぶ国の工事が3月末完成を目指して、急ピッチですすめられています。現在、2か所の開口部のうち、北側の部分がほぼ完成し、南側の工事に全力が傾注されています。

津之江公園自然再生エリアは、芥川と接した閉鎖系ビオトープ的機能を果たす水辺として、整備がすすめられています。自然再生エリアは、自然がどう回復していくかを見守りながら、回復具合に応じて維持管理を行っていくといったやり方を高槻で初めて取り入れるエリアとして注目されています。これまでは、国の工事が遅れていたため、イメージ図で描いているような湿地環境を創出する形態となっておらず、工事の完成が待ち望まれています。

一方、昨年7月以降から、高槻市では、水質、生息動植物、鳥類、昆虫などのモニタリングを定期的に行ってきていますが、体重が10g弱しかない日本最小のカヤネズミが子育てをしていたなど、芥川水系の豊かな自然環境が改めて確認されています。

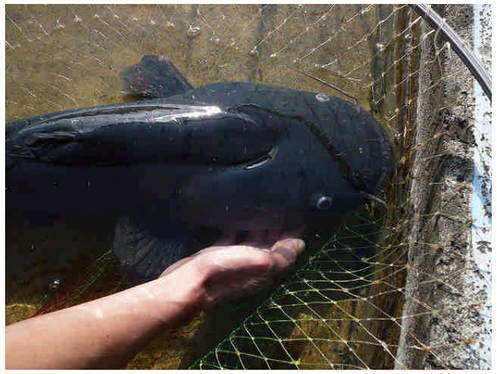
また、芥川水系では、ブルーギルやブラックバス、ミズヒマワリなどの外来種が繁殖してきていますが、自然再生エリアでも芥川固有種などの生息環境の保護をどうすすめていくのかが、重要になっています。

モニタリング結果を踏まえて、再生エリアの多様な動植物の生息環境をどう整備･誘導していけるのか、維持管理計画や市民協働のモニタリング計画をどう作っていくのか、現在その集計策定作業に奮闘中です。

芥川の生き物たちその6　ビワコオオナマズ

あくあぴあ芥川主任学芸員　高田みちよ

2009年11月、高槻市の南東部に位置する「内ヶ池」で1mを超える大きなナマズが捕れました。「ビワコオオナマズ」でした。ビワコオオナマズは琵琶湖のみに生息するナマズで、琵琶湖に続く河川でも確認されています。



内ヶ池は淀川から水をくみ上げているので入り込んできたのでしょう。ナマズとの違いは大きさもさることながら、下あごが出っ張っていること、ヒゲが短いこと、尾びれの上半分（上葉）が下半分（下葉）よりも長いことなどで区別できます。

芥川ではビワコオオナマズは確認されていませんが、ナマズは普通に見られます。初夏にどちらも浅い水辺で産卵します。とくにナマズは川から田んぼに上ってきて、田んぼで産卵することが知られています。このような産卵行動を行う魚はナマズ以外にドジョウや天然記念物のアユモドキなど、何種類かが知られています。現在の多くの川や水路は田んぼよりも低い位置に掘り下げられているものが多く、このような魚が産卵しようと思っても田んぼに入れない構造になっています。芥川の上下をつなぐ魚みちだけではなく、田んぼとの間にも魚みちがあればいいですね。